

インタビュー

高千穂化学工業(株) 代表取締役社長

江上 真紀氏



高千穂化学工業(株) 代表取締役社長 江上 真紀氏

ガスに加えALED用有機材料も提供

「進取と挑戦する精神引き継ぐ」

高千穂化学工業(株) (東京都渋谷区広尾1-4-8、03-3444-0231)のルーツは、高純度アルゴンガスを初めて国産化した1948年まで遡る。65年には半導体材料用ガスの生産を開始し、日本の半導体産業の黎明期とともに歩んできた老舗の特殊ガスサプライヤーだ。半導体市場の好景気の波に乗り、取り扱う材料ガスの出荷も堅調に推移している。江上真紀社長に足元の市況や今後の事業展開を聞いた。

半導体材料ガスの主な製品を教えてください。 江上 当社はシランなどの高圧ガスをはじめ、三フッ化ホウ素、アルシン、ホスフィンなどをセーフティリパーソンズ(SDS)形態で生産・販売しています。SDSは、吸着剤にガスを吸着させて使用するため高圧ガス保安法の適用外で、半導体工場、イオン注

入装置向けに供給しています。最近では炭化水素(ハイドロカーボン)やエキシマレーザー向けのガスなどの需要が拡大しています。現在は売上高の3〜4割が半導体・液晶向けなどの材料ガスとなっています。 江上 おかげさまで堅調に推移しています。国内向けがメインですが、最近で

は台湾や韓国向けにも出荷が増えています。数量ベースでは前年比5%増の安定した伸びを示しています。 生産・

事業の対象となったため、新たに堺事業所を立ち上げ、倉庫機能も備えた営業所になる予定です。また、3年前には九州出張所(佐賀県)を、パッキン製造工場跡地に開設しており、半導体のみならず、自動車排ガス測定用標準ガスなどの供給拠点として活用し、今後は西日本の顧客へのデリバリーの強化を進めます。

さん誕生しており、そうしたところからのソースの調達も考えていきたいです。 新製品開発の動きを教えてください。 江上 ALED(Atomic Layer Deposition)向けの薄膜形成用やフッ素系材料として液体材料の供給も行っています。さらに最近ではフッ素化合物系クリンク材料の需要も拡大し

求がきているのですか。 江上 SiCでは窒素(N₂)フリーの要求がきています。モノシランでは0.1ppm以下、トリメチルシリルでも0.5ppm以下といったレベルを当社はすでに実用化しており、顧客から高評価をいただいています。これら複数の製品群で高純度に精製できるのは、当社において他にはないことと自負しています。当社ではZero Nitro